

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム アルプス
(ユニット名)	きんもくせいの家
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県 鹿児島市 高麗町42番12号
記入者名 (管理者)	倉津 ヤス子
記入日	平成 21年 7 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年度開設時より、「その人らしく香り高く生きるため、寄り添って過ごします」と「地域の方々との交わりを大切にします」を掲げ、交流を重ねている。	美容院も地域の美容院にグループホームに来て頂き、世間話をしながら、カットしてもらおう。散歩に行く時も、犬・猫の好きな方が飼っている犬や猫を話題にお喋りする。又、声をかけて下さっている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月のミーティングで唱和を行い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	消防訓練や運営推進会議に民生委員や地域の方に参加して頂き、説明を行い理解して頂いている。 又、家族会・ホームでの行事の際には積極的に参加して頂けるようにホームの新聞や面会時に案内を行い、その都度、理解して頂けるよう、取り組んでいる。	行事に家族の参加と地域の方の参加を一緒にする事で、交流を重ね、理解してもらっている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に加入し、行事に参加したり、散歩・買い物等の折に挨拶や話をする機会を作り、交流を努めている。	日々の他愛のないお喋りや挨拶が出来ている。行事時も声をかけて参加して頂いている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中学校の運動会の見学や、夏祭り・しめ縄作りに参加し、又、中学生の職場体験を受け入れている等、地元の人々との交流に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	研修や認知症ケア・実践者経験を活かし、地域のボランティア活動で役に立てよう努力している。	○	キャラバンメイト・認知症の人と家族の会に入会し、少しずつ活動の場を広げるべく努力している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価の結果を踏まえ、反省点を改善すべく全職員にて実践できるよう努力している。	○	外部評価を受ける前に、自己評価に全員で取り組むことでグループホームとはどうあるべきかを理解でき、サービスの質をアップできている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	前回の意見についての取り組み状況や反応等、報告する。又、参加者の体験談等を毎月のミーティングの際に取り上げ、職員の振り返りの人材としてサービスの質の向上に活かしている。		意見の中から出来る事は取り組み、成果の報告を行っている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	管理者から市へ相談・報告は行っている。又、研修受け入れの相談があった場合は、受け入れている。		迷うときは、すぐ電話で相談してサービスの質の向上に取り組んでいる。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	全員、勉強会に参加し学び、家族に説明する事もある。		家族に成年後見人制度の利用を説明し、書類作成まで行ったが途中で断念された。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	研修は外部と法人内と行った。		事件が報道される度にミーティングや日々の話題にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、契約書・重要説明書を家族と共に読み、当ホームの運営方針やサービスの提供について分かりやすく説明し、同意を得ている。 又、契約解除の際もご本人・ご家族が安心して次のサービスを受け、生活が出来るように情報提供している。	○
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の言葉を傾聴し、触れ合いの中で意見・不満・苦情をいつでも話やすい関係を作り、利用者・管理者・職員で話し合っている。 毎年の介護相談員を受け入れ、入居者様の意見を聞いて頂、参考にしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話などで利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告し、年6回のホーム便りで行事参加の様子等を見て頂いている。 金銭出納帳の報告も定期的に行い、家族に確認をとっている。	○ お金を使う場合は、その都度ご家族に相談し、了解をもらってから買い物をするようにしている。 職員の退職時は面会時に報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に声掛けをし、意見・不満・苦情や要望など話しやすい機会を設け、問題点があれば職員で話し合い、少しでも良い方向に行くように取り組んでいる。	面会ノートを利用し、意見・要望を書き添えていただくようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員からの報告・連絡・相談を受けられるよう話し合う時間を持ち、意見や提案を運営に反映できるよう努めている。	個別面談は年2回実施しているが、全体ミーティングは月1回行い、意見を聞いて、不満や苦情等は職員間で日常的に話題にした内容から聞き出し、反映させている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況の変化時は勤務人数を増やす。又、職員の体調不良の場合は公休の人が交代する等の対応が出来る。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット間の職員を固定化し、顔馴染みの職員の支援が受けられるようにする。職員間においても話し合いを常に持ち、離職の場合は利用者に理由を説明し、新職員に対しても違和感をもたれないよう働きかけている。	離職の場合は本人が自ら入居者に挨拶をする。ご家族には面会時に退職の説明を管理者・本人が行う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は職員が交代で参加できるように勤務調整をし、学べる体制作りをしている。法人全体の内部研修も年2回企画・実施し、全員参加で行っている。</p>	<p>市のグループホーム協議会でやっている出前研修は年3回同じ内容である為、全員が受ける事としている。又、法人内でも年2回あり、夜勤者以外は全員参加している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・市のグループホーム連絡協議会に加入し、研修や行事に参加している。他のグループホームとの交流等も積極的に参加しており、意見交換や勉強会通じ、質の向上を目指す取り組みをしている。</p>	<p>市グループホーム協議会に入会し、研修・行事に参加しながら交流を深め、お互いの事業所訪問等で質の向上を目指している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>常に話せる機会を持ち、職員間でもケアに対する問題点や悩み等を相談出来るようにしている。時には場所を変え、会食をしながら和やかに語りあえる時間を作り、気持の転換を図っている。</p>	<p>年2回の個人面談と職員の様子の変化を見極め、声掛けする。又、他職員からの変化報告から話せる環境を行っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修希望者や資格取得の為の講習等には勤務調整をし、参加できる体制作りを行っている。</p>	<p>本人からの研修参加の報告には有休をあげる。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居希望者には本人が安心し、安心して納得してサービスを利用出来る様、見学をしてもらい、不安や希望など、ゆっくりと話せる時間をとっている。お茶を飲みながら楽しく交流を図る為に配慮している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学をして、周りの環境や入居者の様子を見てもらいながら不安なこと、求めていることをよく知り、受け止め、安心して利用してもらえる様努力している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談・見学時の相談の際、本人や家族の思いを聞き、出来る限り支援している。 他の施設の紹介や見学の段取りを行っている。		管理者の名刺に携帯番号を書き込み、いつでも困った時に電話できる・相談できる体制でいる事を伝えて対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みをされた時から職員が会いに行き、顔馴染みになり、入居となっている。又、入居してすぐは家族の協力をもらいながら安心して暮らせるように支援している。		他の施設からの申し込みの方は入所中の施設のケアマネジャーや、相談員と連携を取り、会いに行き顔なじみになる。 自宅からの申し込みの方はアルプスの見学にお誘いして職員と顔馴染みになる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の気持ちに共感し、人生の先輩であることで、常に学びの姿勢で接する。昔からの習慣等は入居者に聞いて、教えて頂くことで本人の自信にもつなげている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調については、報告・相談し、専門病院受診の際は職員も一緒に受診し、情報提供している。		体調変化や認知症の症状変化等も電話や面会時に報告して相談し、本人にとって一番良い方法を模索しながら支援している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人から家族に伝えにくい事や日頃の生活の中から見えてくる。ご家族への要望等、職員が間に入り、お互いに感謝できる方向に対応している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との関係は面会時間の制限をしないで、いつでも会いに来て一緒にすごして頂けるように配慮している。又、外出の制限もなくホームで対応できる外出は、家族の了解を得て実施している。		全員での外出はお花見やソーメン流し、個人的には、教会の日曜礼拝、お寺の参拝がある。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	本人同士で仲良くなった方、又、自分から人の中にはいっていけない方には職員の方で仲を取り持ち、笑顔で談話ができる。又、お互いに支えあい、日常生活を送れるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院の為に退居した利用者の場合、見舞いや面会に職員が交代で行き、継続的な関わりを大切にしている。家族との関わりも電話連絡・相談事で退居後もお付き合いしている。		在宅に帰る方がいない為、本人を行事に招待する事は出来ていない。以前は他施設に入所の方が遊びに来ることはあった。利用者と一緒に病院にお見舞いに行く事に取り組んでみたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族に希望を聞く。又、職員同士で入居者の情報を共有し、把握に努めている。希望が多い場合は、家族との話し合いの場を設けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居者や家族・関係者などから生活歴や職歴などを聞き取り、職員間での情報の共有に努めている。又、これまでのサービス利用の経過等に関しては、以前、利用していた事業所と連携を図り、施設利用時の情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人の生活リズムを理解すると共に、心身状態にあった生活を送るために、職員が支援するようにしている。		できる事に重点をおき、生活全般に一人一人を支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや本人・家族の思いや希望を聞き、その人らしく、今までの生活を大切に暮らせる介護計画書を職員全員で作っている。		体調の変化や希望の変化があった場合、すぐに職員が集まり、本人にとって一番良い方法は？とカンファレンスして作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態の変化に応じて見直しを行っている。又、3ヶ月毎に評価を行い、職員の記録を元に変更する事もある。		体調変化・希望の変化に応じて介護計画を立て直しサービスの提供を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別ケアに記録し、状態変化や職員の築きなども記録に残し、朝・夕の申し送りで共有している。休みの次の日は日誌や個別記録を業務に入る前に確認することを義務付けている。	○	3ヶ月の評価・ケア記録・日誌・健康記録等の記録物や職員の情報をもとに担当会議を行い、見直しをしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、満足度を高めるよう努力している。		協力病院以外の病院受診は、ご家族だけでは日常の情報が正しく伝えにくいので、職員が同行して情報提供している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方にホームの行事に参加して頂いて、日頃から意見交換や入居者の状況を報告している。		2ヶ月毎の運営推進会議に参加して頂いて入居者・ホームの情報を報告し、意見交換をしている。消防訓練を運営推進会議の中に取り組んで行う事もある。これからは、警察の方に入って頂くことになっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて地域の訪問理美容サービスを利用してもらっている。		男性の床屋さん、女性の美容師さんに来てもらい。本人の希望の人にカットしてもらっている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり、情報交換・協力関係が築いている。		他のグループホームの良い所等を教えて頂き、出来るところは真似て、サービスの質の向上に努力している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院をかかりつけ医院とし、急病の時は協力病院の往診を受け、家族へ連絡すると共に、かかりつけ医へ報告し、助言をもらっている。		かかりつけ医が遠い事もあり、急病の場合は近くの協力病院の往診を受ける。定期受診は家族が付き添う事として、かかりつけ医とは情報交換と受診結果情報の共有で関係を密にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>ご家族・主治医・職員と話し合い、専門医の治療が受けられるよう支援し、本人・家族・職員と一緒に受診し、相談しながら治療を受けている。</p>		<p>近くにある物忘れ外来等の認知症専門医を受診し、指示や助言をもらっている。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>母体・協力病院の看護職員と連携を取っている。毎日、入居者の健康管理をチェックして状態変化時は連絡を行うようにしている。</p>		<p>母体病院をかかりつけ医としている入居者は月1回の定期受診を毎週水曜日に交代で行く。又、リハビリを受けている入居者もいて、看護職員との情報が共有できている。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は情報提供書を提出し、お見舞いに伺うように心掛けている。ご家族の希望や本人の回復状態等、医師との連携を図り、早期に退院できるように努めている。</p>		<p>入院時に早く退院できるようお願いして、家族・入院先の病院・かかりつけ医・グループホーム職員が一体となり退院支援を行っている。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人や家族の希望に添えるように介護計画書を立て、取り組んでいる。</p>		<p>重度化した場合、グループホームでどこまでできるかを家族・本人・職員・医師と早期に話し合いを持って、方針・支援方法を決めている。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の意向を聞き、かかりつけ医と密に連絡をとっている。家族へも状況報告をその都度行い、急変時はすぐに対応できるよう常日頃から病院と連絡している。</p>		<p>家族の意向を聞き、医師・職員が連携を取り、急変した時にすぐ対応してもらえるようにしている。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報提供書を作成し、情報交換を行っている。家族との連絡も行うよう心掛け、職員が訪問に行く等、可能な限り関わりをもっている。</p>		<p>新しい施設・病院でも今までの生活が継続できるよう情報提供し、連携を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング・申し送り時に職員の意識向上を図る。個人情報の記録は職員室にて管理されている。	排泄の誘導・介護は常にさりげなく他者に気付かれないように徹底している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	毎日のケアの中で、会話を大切にし、本人の希望や思いが表出できる雰囲気を作り、実践できるよう心掛けている。	一人一人のできる事により、本人が決定する機会を作っている。 例:誕生日のメニュー等
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気持ちの変化に気を配り、希望に近づける様支援している。	基本となる一日の流れは決まっているが、その日のその人の体調により柔軟に対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美師に出張して頂き、その方に合った髪型にしてもらい、身だしなみやお洒落が出来るように支援している。	理美容は、家族と外出して、馴染みの美容室で行う人もいる。又、リハビリ等に出かけるときは、外出着に着替えてお洒落することもある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋上にて季節の野菜を入居者と一緒に収穫したり、食材の下ごしらえ・食事の準備、片付けなどを職員と一緒にしている。	毎日のメニューを相談するも、「何でも作ってもらえればいい」と返事する為、自分の誕生日メニューはご自分で決めてもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時・15時のおやつ時間に好みの物を提供できるようにしている。	数種類のお菓子をだして選んでいただく事や、「今日は○さんの好物」として出している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間排泄案内・食前・食後・外出前・外出後は必ずトイレの声掛けをさりげなく行い、日中はトイレで排泄が出来るよう支援している。夜間も尿意時、案内を行っている。		よるのみ尿とりパットとリハビリパンツを使い、日中は布パンツで対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の体調に応じ、希望を重視している。本人の納得いく様、入浴時間を合わせている。		仲の良い方と一緒に談笑しながらゆっくり入る人、シャワーだけで浴槽の嫌いな人、一人でゆっくり長風呂を楽しむ人、それぞれの方の希望で支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は家事活動・散歩・レクリエーションに参加して生活リズムを整えるよう努めている。又、本人の体調に合わせ、昼食後1時間程休息を案内するよう支援している。		眠れなく体調を崩す人は、認知症専門医に相談し、助言をもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園で季節ごとの野菜を育てたり、食事の下ごしらえや片付け・洗濯たたみ・裁縫等、生活における作業はできるだけ協同できるようにしている。梅干し・あくまき作りやラッキョウ漬け等、経験や知識を生かし、自信と張りのある生活支援をしている。		できる事(例えばテーブル拭き・食器洗い・洗濯干し)と本領発揮できる場面を作っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物・散歩に出かけた時に好きな物を購入し、お金を自由に使えるよう支援している。		お寺の賽銭を個人の財布より持って行く人、教会に献金を財布より持って行く人、入居者それぞれの価値観に応じて対応している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は公園やお寺へ行き、地域の方々との交流も行っている。		パン好きの入居者がこだわりのパン屋さんに職員と一緒に買いに行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて、花見やソーメン流し・コスモス見学等を計画し、ご家族の方への参加案内を行っている。又、ご家族と墓参りや食事等、一緒に出かけられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・友人からの手紙・電話を歓迎している。年2回、暑中見舞いや年賀状は全員で取り組み、支援している。		家族・友人へ電話をかけたり、受け入れたり入居者全員に利用を促し、支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間も設定しないで、いつでも自分の実家だと思ってくれる様に、職員全員が笑顔で迎えている。		他の入居者に気兼ねなく、ゆっくり過ごしてもらえるように居室での面会をすすめている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を全員が受け、身体拘束による身体的・精神的弊害についての理解、拘束のないケアをしている。		身体拘束しないためのケアを話し合い、取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はカギをかけないことを開設時より実施している。		入居者が外出する様子があったら、一緒に散歩に出かけるようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員と入居者はいつでも同じ空間にいる。記録も入居者と談話をしながら行っている。夜間、覚醒時はすぐに対応できるようにしている。		午後4時からホールで入居者・職員が同じテーブルに座り、昔の話や歌を歌いながら記録を行う。夜間は、時間を見て巡視すると共に、音を聞きすぐ見守りに行く。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わせて、何が危険で管理する必要があるかを把握し、家族との話し合いの場を設け、片付ける場所を決める等して対応している。		居室に鉢を置いても大丈夫な人の部屋には置いているが、今までに鉢で危険な出来事があった人には、軽い造花に変えて対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測されるリスクの検討を行い事故を未然に防ぐ為に努力している。ひやりはっとの記録と安全対策のカンファレンスも行っている。		職員全員で取り組んでいるが、転倒等夜間に一人居室にいる時が防止できない為、ベッドにゆっくりと座る。ベッド柵につかまって座る等、訓練中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、消防署の救命講習を学び、手当て・応急や初期対応ができよう定期的に訓練を行っている。		新人教育の中に、救命講習の受講を取り入れていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の指導による訓練を実施している。また、1階デイ・サービス職員と合同訓練を行っている。運営推進委員会、及び、地域の方・母体病院の協力も得られている。		運営推進委員会当日、地域の方々・民生委員の方々にも消防訓練に参加して頂いている。母体病院の協力も得られる様に訓練時は救護要請の連絡をして参加し協力を得ている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	変化があった時、ご家族と話し合い、リスクのある中でも日常生活を快適に過ごせるよう支援している。体調等の急変時は、医師報告・家族への連絡を行っている。		入居者の身体的機能から考えられるリスクは、全面的に報告しカンファレンスを行い対策を話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、健康記録に血圧・脈・熱・食事摂取量・排便チェックを記載し、気付いた事は朝・夕の申し送りで行い情報を共有している。		体調変化があったら、すぐに主治医に連絡を受け対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧表で、職員全員が把握理解するよう努力している。服薬の変更・新しく処方があった場合は、症状の変化に気をつけている。		毎月の処方箋をファイルし、職員が薬の内容を把握できるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や散歩・家事活動で体を動かすように努め、食事面では、毎日ヨーグルトと繊維質の食物・水分を取っていただいている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、就寝前に義歯の消毒を行っている。また、口臭の強い方は、液体歯磨きを併用している。		入居者それぞれ、できる口腔ケアをしてもらい出来ない部分は、し職員と一緒に個別に寝る前に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回健康記録に記載し、毎月体重測定を行い、定期受診時に報告・指導を受けている。水分摂取量も1日を通して確保し、脱水症状の防止に努めている。嚥下状態・咀嚼低下に応じて、摂取しやすい食事を提供している。	嘔吐・下痢等の症状があった時は水分摂取と排泄の確認を行い、病状悪化を防ぐよう支援している。栄養面では、母体病院の栄養士に点検・助言をもらっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいの励行に努め感染予防のマニュアルを作成し、感染症の研修へ参加し、学び職員全体で感染予防に努めている。	インフルエンザの予防接種は入居者・職員全員で受けている。洗面所にポンプ式の薬用ハンドソープとペーパータオルを設置している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材・台所・調理器具の衛生管理方法について、決めての決め事があり実行している。	食中毒予防の三原則を冷蔵庫に貼り、食材・調理器具の点検・確認を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ドアに来訪者歓迎のポスターを掲示して、職員の気持ちを伝える努力をしている。グループホームの行事に気軽に参加して頂くように工夫している。	散歩の途中にちょっと立ち寄り時間の面会が出来るよう、また腰を掛けて靴の脱履きができるように、ベンチを設置している。ホームの花壇に咲いている、季節の草花等を花瓶に生けて明るい雰囲気作りに努めている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に対面式の台所を設置し、野菜を刻む心地よい包丁の音・食器を洗う水の音・ご飯の炊ける匂い・季節の行事時、入居者が習慣として作っていた料理等を作る等して、季節感や家族的な雰囲気等で心地よく生活できるよう工夫している。	共用スペースは、日当たり良く明るく、ゆっくりテレビを観る為にテレビ前に設置し、昔馴染みの整理箱・電話は黒いダイヤル式にして、見慣れた物で生活感を出す工夫をしている。台所の棚には、梅干しやラッキョウも見える位置に置いている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のベンチやテレビの前に、ソファを設置し、思い思いの時間を過ごせるよう居場所作りに努めている。	誰もいないソファに腰をかけ1人で音楽を聴きながら、時には後ろを振り向き「こっちこない」と誘い会話に努める事もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族・ご本人の個性のある居室が作られており、居心地よく過ごせるようにしている。		入居時に、使い慣れたものを側に置く事の意味を説明し、小さな物でも持って来てもらい安心して生活できるようにしている。特に、布団は使っていた物を持ってきている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に設置してある換気扇により常に換気を行っている。24時間対応の換気扇も取り付けであり、新鮮な空気を取り入れている。また、ホールに温度・湿度計を設置し時間でチェックし状況に応じて調整している。		朝は、起床時に窓・カーテンを全開する事から始め、掃除が終わって1時間位は閉めないで換気に注意している。日中も悪臭が出ない様に、こまめに窓を開け、換気扇を使い空気の入替えをしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方・自立歩行が困難な方でも、手すりを使用し室内を安全に歩行できるようにしている。残存機能を生活が送れるような環境作りに努めている。		入居者の状況に合わせて、手すり・浴室・トイレ・廊下に手すりをつけている。また、歩行状況により、車椅子・シルバーカー・介護者の手引きで活動できるように職員が把握して介助している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活の中で個々の出来る事・出来ない事・したい事・したくない事を見つけ把握し、混乱や失敗を未然に防ぎ自立して生活が送れるよう工夫している。		小さな衣類のほつれやシーツ交換で混乱する方の場合には、速やか補給・洗濯乾燥で見慣れた洋服・シーツで対応している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上に家庭菜園があり、入居者と共に季節の野菜を育てたり、収穫をしながら季節感を味わっている。また、ベランダに職員と共に、洗濯物干し・取り入れを行っている。プランターの花の水やりや手入れも行っている。		歩行不安定な方で散歩に出掛ける事が困難な方は、屋上で柵を支えに歩いたり外気浴・日光浴を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

街中にあり、交通の便が良く面会に来るにも外出するにも便利で近くに入居者に馴染みのお寺・散歩には自然がたくさんある公園等がありグループホームに最適の環境である。

また、屋上に菜園があり、季節の野菜や花を栽培し、夏はキュウリ・トマト・ナス・シソ、秋はサツマイモ、冬はネギ・白菜・チンゲンサイ、春はジャガイモと職員が入居者に指導して頂き収穫の喜びを一緒に味わっている。